

# 総会報告

## 第 27 回通常総会報告

日 時：平成 21 年 3 月 10 日(火) 13 時 30 分～14 時 45 分

会 場：本郷瀬川ビル (東京都文京区本郷 2-35-10)

出席社員数：103 名 (内委任状 72 名)

(社員数総数：111 名, 総会成立の定数 56 名以上)

議 案：

- (1) 平成 20 年度事業報告 [第 1 号議案]
- (2) 平成 20 年度収支決算書報告 [第 2 号議案]
- (3) 平成 21 年度事業計画 [第 3 号議案]
- (4) 平成 21 年度収支予算 [第 4 号議案]
- (5) 個人会員除名処分の件 [第 5 号議案]
- (6) 平成 21 年度役員の内 [第 6 号議案]
- (7) 平成 21 年度評議員の内 [第 7 号議案]

議 事：

午後 1 時 30 分, 定款第 24 号に基づき佐藤知正会長が議長となり, 出席者が定款 26 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上, 第 27 回通常総会の開会を宣した。

次いで, 以下の各議案について提案および詳細な説明があり, 逐次審議を行った結果, いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

### 【第 1 号議案】

平成 20 年度 事 業 報 告  
(自平成 20 年 1 月 1 日 至平成 20 年 12 月 31 日)

#### I 庶 務

##### 1. 会員状況

	平成 20 年 12 月 31 日現在	平成 19 年 12 月 31 日現在	増減
名誉会員	8 名	6 名	2 名増
正会員	3,035 名	3,033 名	2 名増
学生会員	1,079 名	1,102 名	23 名減
賛助会員	71 団体 (99 口)	70 団体 (98 口)	1 団体増 (1 口増)

##### 2. 第 26 回総会

会 期：平成 20 年 3 月 11 日(火)

会 場：本郷瀬川ビル

出席社員数：91 名 (うち 委任状提出：65 名)

(正社員総数：111 名, 総会成立の定数 56 名以上)

議 題：平成 19 年度の事業・決算案, 平成 20 年度の事業計画・予算案, 個人会員除名処分, 理事・監事の選任の内, 評議員の選任の内

上記について審議し, 議決した。

##### 3. シンポジウム, 講習会等の主催, 共催, 協賛, 後援 (定款第 5 条 1 号, 5 号)

- (1) シンポジウム, 講演会, 講習会等 9 件を主催した。
- (2) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト等 9 件を共催した。
- (3) シンポジウム, 国際会議, 講演会, 講習会, 展示会, 研究会等 86 件を協賛した。
- (4) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト, 展示会等 25 件を後援・協力した。

##### 4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- (1) 会誌編集委員会 (委員長：溝口 博)

- (2) 欧文誌委員会 (委員長：吉見 卓)
- (3) 事業計画委員会 (委員長：近野 敦)
- (4) 国際委員会 (委員長：大山英明)
- (5) 研究協議会 (委員長：内山 勝)
- (6) 出版事業委員会 (委員長：近野 敦)
- (7) 電子化運営委員会 (委員長：榊原伸介)
- (8) アドバイザリーボード (委員長：佐藤知正)
- (9) 将来ビジョン策定委員会 (委員長：佐藤知正)
- (10) 事務局体制検討委員会 (委員長：榊原伸介)
- (11) 第 26 回学術講演会実行委員会 (委員長：大須賀公一)
- (12) 表彰委員会 (委員長：内山 勝)
- (13) 第 22 回論文賞選考小委員会 (委員長：榊原伸介)
- (14) 第 23 回研究奨励賞選考小委員会 (委員長：榊原伸介)
- (15) 第 24 回研究奨励賞選考小委員会 (委員長：榊原伸介)
- (16) 第 13 回実用化技術賞選考小委員会 (委員長：内山 勝)
- (17) 外部表彰選考小委員会 (委員長：内山 勝)
- (18) 会員 5000 名拡大計画委員会 (委員長：佐藤知正)
- (19) 著作権管理委員会 (委員長：内山 勝)
- (20) 学術講演会管理推進委員会 (委員長：榊原伸介)

##### 5. 役員および評議員の選出

平成 20 年度の理事・監事ならびに評議員を選出した。

##### 6. 評議員会, 理事会

- (1) 平成 20 年 9 月 9 日(火) に第 26 回評議員会を開催し, 会務報告と評議を行った。
- (2) 平成 20 年度中に 12 回理事会を開催し, 会務の審理と処理を行った。

##### 7. フェロー, 名誉会員の選任

3 名の名誉会員及び 8 名のフェローを選任した。

##### 8. 学会の基盤強化

将来にわたる会員強化のために, 若年層への啓蒙活動および若年層の会員化検討を開始した。

##### 9. 電子化運営委員会

- (1) 次年度からのホームページサービス改善に向け, 学会サーバー HD 容量を大幅拡大した。
- (2) ロボット学会運営の効率化, 会員サービスの向上に向け, 新学会 DB の基本設計実施。
- (3) 学会ホームページサービス拡大の一環として, 電子化ロボット用語集, 全国ロボット研究室紹介, 会員名簿電子化, 学会誌アーカイブ/AR 誌会員全員購読化につき検討した。

##### 10. 事務局

- (1) 事務局体制小委員会を定期的開催し, 中長期的な事務局体制について検討した。
- (2) 電子化運営委員会と連携し, 会員サービスとして各種関連行方案内を発信した。

#### II 事 業 (定款第 5 条 1 号)

##### 1. 学術講演会

###### (1) 第 26 回学術講演会

期 日：2008 年 9 月 9 日(火)～11 日(木)

会 場：神戸大学工学部キャンパス

組 織：実行委員長：大須賀公一 (神戸大学)

プログラム委員長：羅 志偉 (神戸大学)

発 表 件 数：753 件

15 パラレルセッション

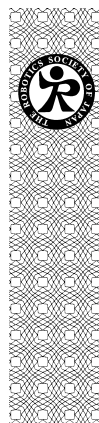
一般セッション： 87 セッション

オーガナイズドセッション： 15 セッション

展開セッション： 10 セッション

国際セッション： 4 セッション

わが研究室の RT セッション： 3 セッション



合 計： 119セッション

特別講演：講師 姫野龍太郎氏 [(独) 理化学研究所]  
 テーマ：「次世代スーパーコンピュータとグランドチャレンジ—次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトからロボット開発へのエール—」

参加者数：1,382名

正 会 員：793名

学 生 会 員：495名

非 会 員：41名

学 生 非 会 員：53名

## 2. ロボット工学セミナー

### (1) 第44回シンポジウム「ノーマライゼーションを目指すロボット技術」

期 日：2008年3月23日(日)

会 場：埼玉大学東京ステーションカレッジ

講 師：小野栄一(産総研), 池田雅春(研究開発コーディネータ), 三宅徳久(パラマウントベッド), 岩田浩康(早稲田大学), 吉川和徳(ふつうのくらし研究所)

オーガナイザ：中後大輔(電気通信大学)

参加者：23名(会員：10名, 会員外：3名, 学生：7名, 賛助優待：3名)

### (2) 第45回シンポジウム「月・惑星探査で利用される日本のロボット技術」

期 日：2008年4月25日(金)

会 場：埼玉大学東京ステーションカレッジ

講 師：川口淳一郎(JAXA), 久保田孝(JAXA), 吉田和哉(東北大学), 西田信一郎(JAXA), 吉田哲二(清水建設)

オーガナイザ：中村太郎(中央大学)

参加者：26名(会員：6名, 会員外：8名, 学生：9名, 賛助会員：3名)

### (3) 第66回講習会「ロボットの作り方2008」

期 日：2008年5月29日(木)・30日(金)

会 場：千葉工業大学芝園キャンパス

講 師：小野美未彦(小野電機製作所), 秋山好司・登坂博和(テクノクラット), 古田貴之・奥村 悠・戸田健吾(千葉工業大学)

オーガナイザ：近野 敦(東北大学), 中嶋秀明・先川原正治(千葉工業大学)

参加者：のべ37名(会員：10名, 会員外：4名, 学生：22名, 賛助会員：1名)

### (4) 第46回シンポジウム「ロボットシミュレータ OpenHRP3 の使い方」

期 日：2008年6月11日(木)

会 場：産業技術総合研究所臨海副都心センター

講 師：中岡慎一郎(産総研), 川角祐一郎(ゼネラルロボティクス)

オーガナイザ：近野 敦(東北大学)

参加者：74名(会員：22名, 会員外：1名, 学生：47名, 賛助会員：4名)

### (5) 第47回シンポジウム「ロボットの環境把握と自己位置推定」

期 日：2008年6月18日(水)

会 場：千葉工業大学津田沼キャンパス

講 師：友納正裕(千葉工業大学), 加賀美聡(産総研), 三浦 純(豊橋技科大学), 倉爪 亮(九大), 森 利宏(北陽電機)

オーガナイザ：中嶋秀明(千葉工業大学)

参加者：131名(会員：43名, 会員外：14名, 学生：58名, 賛助会員：16名)

### (6) 第48回シンポジウム「手を探る」

期 日：2008年7月23日(水)

会 場：中央大学後楽園キャンパス

講 師：多田充徳(産総研), 中田真由美(埼玉県立大学), 梶本裕之(電気通信大学), 安藤英由樹(大阪大学), 星野 聖(筑波大学)

オーガナイザ：山脇 輔(防衛大学校)

参加者：49名(会員：20名, 会員外：10名, 学生：16名, 賛助会員：3名)

### (7) 第49回シンポジウム「アスバレーを乗り越える手術支援システム」

期 日：2008年11月19日(水)

会 場：中央大学後楽園キャンパス

講 師：鎮西清行(産総研), 伊関 洋・中村亮一(東京女子医大), 紫雲俊美(瑞穂医科工業), 池田誠一(名大, ファイン・バイオメディカル)

オーガナイザ：岸 宏亮(日立製作所)

参加者：31名(会員：12名, 会員外：11名, 学生：7名, 賛助会員：1名)

## 3. 共催事業

国内共催事業：

### (1) 第13回ロボティクスシンポジウム

期 日：2008年3月16日(日)・17日(月)

会 場：湯元こんびら温泉 琴参閣(香川県)

実行委員長：石原秀則(香川大学)

プログラム委員長：川端邦明(理化学研究所)

### (2) ロボカップジャパンオープン2008 沼津

期 日：2008年5月3日(土)～5日(月)

会 場：キラメッセぬまづ, 沼津市民体育館(静岡県)

主 催：ロボカップジャパンオープン2008沼津開催委員会

ロボカップ日本委員会会長：松原 仁(公立はこだて未来大学)

### (3) 日本ロボット学会・自動車技術会合同フォーラム

期 日：2008年5月21日(水)

会 場：パシフィコ横浜アネックスホールF205 + F206(神奈川県)

企 画：日本ロボット学会・自動車技術会合同フォーラム実行/対応委員会

### (4) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2008

期 日：2008年6月21日(土)・22日(日)

会 場：仙台市科学館(宮城県)

主 催：ロボット競技会実行委員会, メカトロで遊ぶ会,(社)日本ロボット学会

ロボット競技会実行委員会代表：高橋隆行(福島大学)

### (5) 第8回レスキューロボットコンテスト

期 日：2008年8月9日(土)・10日(日)

会 場：神戸サンポーホール(兵庫県)

実行委員長：升谷保博(大阪電気通信大学)

### (6) 第11回建設ロボットシンポジウム(SCR2008)

期 日：2008年9月2日(火)

会 場：早稲田大学国際会議場井深大記念ホール

主 催：(社)土木学会, (社)日本建築学会, (社)日本ロボット学会, (財)先端建設技術センター, (社)日本建設機械化協会, (社)日本ロボット工業会

運営組織委員会委員長：神崎 正(香川大学)

## 4. 出版事業

ロボット学会ホームページにて、ロボット用語辞典の無償一般公開を開始した。

## III 学 会 誌 (定款第5条2号)

学会誌第26巻1号より8号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次の通りである。

第26巻1号 複雑ネットワークとロボティクス

- 第26巻2号 今使えるロボット通信技術
- 第26巻3号 人間・人体への力学的アプローチ
- 第26巻4号 ロボットの三次元環境認識と行動生成
- 第26巻5号 次世代ロボット共通プラットフォーム技術
- 第26巻6号 第25回学術講演会論文特集号
- 第26巻7号 アカデミック・ロードマップ
- 第26巻8号 ロボットのいる生活

上記のように特集号企画に関しては、本学会の専門性を活かしかつユニークな特集号の企画を進めた。特に、昨年度に続き今年度もロボット学の活性化を図る目的で学術講演会論文特集号を企画した。これは学術講演会での講演論文から、新しいコンセプトの提案、優れた学術成果、有用な技術に対して論文投稿を推薦し、学術講演会の研究発表件数の2割程度に留まっている論文投稿数の増加を目指したものである。今回は、昨年度、千葉工大で開催された第25回学術講演会での講演論文から150件の論文を推薦し、60件の投稿を得、査読結果に基づき最終的に32件の論文を掲載した。一般記事として、学会やイベントの報告記事の掲載を行った。

年間の論文投稿件数は212件（前年度244件）、判定結果は採録可45%（39%）、採録不可（再投稿を推薦）47%（41%）、採録不可8%（20%）であった。判定までの期間は平均119日、最短28日、最長316日（前年度は97日、35日、210日）で掲載までの期間は平均285日（242日）であった。再投稿を推薦した論文の再投稿率46%（47%）、採録率78%（68%）であった。広告については、目標金額700万円に対して達成率は約98%であった。

毎号学会誌の届くのが楽しみになるような企画という観点から、研究者による普段の生活に関連したコラム「研究者の日常 or 非日常」の連載を開始した。これは、研究の詳細な紹介というよりは、こだわりの趣味の紹介や留学体験記、研究での失敗談等幅広い話題を取り扱うものである。また、ロボットに関する有名人のインタビューをまとめる形式の「この人に聞く」という記事を企画し、第27巻からの掲載を計画した。学会やイベントの報告記事の掲載も引き続き行った。

会誌の年間発行号数増加の具体化について検討を行った。掲載論文数や経費等の観点から次年度の12号化実現は困難と判断し、次年度は10号化を実施することとし、具体的計画を立案した。

#### IV 欧文誌（定款第5条2号）

##### 1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol.22を発行した。各号の詳細は以下の通りである。

No.	発行月	発行済	内容
No.1	08.1月	発行済	Robotic Platforms for Research in Neuroscience (2)
No.2-3	08.2月	発行済	一般論文 (Double Issue)
No.4	08.3月	発行済	一般論文
No.5	08.4月	発行済	一般論文
No.6-7	08.5月	発行済	一般論文 (Section Focused on Middleware for Robotics)
No.8	08.6月	発行済	Tactile Feedback for Humanoids and Humans
No.9	08.7月	発行済	一般論文
No.10	08.8月	発行済	Humanoid Technologies and Systems
No.11	08.9月	発行済	一般論文
No.12	08.10月	発行済	IROS2 2007
No.13-14	08.11月	発行済	一般論文
No.15	08.12月	発行済	Mobiligence (1)

##### 2. 論文の投稿、査読の状況

2008年における年間論文投稿総数は288件（一般論文・160件、特集号論文・128件）で、2007年より98件増加し、史上最高の投稿数を記録した。特に、特集号を積極的に企画したことが投稿数の大幅な増加に効果をもたらしており、特集号への投稿数が91件増加している。この状況は当該分野の論文投稿先として、欧文誌の評価が高まってきたことの表れと考えている。

（参考）年間論文投稿総数の推移

2001年：75件（41件）→ 2002年：75件（51件）→ 2003

年：118件（75件）→ 2004年：158件（110件）→ 2005年：187件（142件）→ 2006年：184件（137件）→ 2007年：190件（153件）→ 2008年：288件（160件）

※（ ）内は一般論文

投稿論文の採録率は、2006年は34.0%（一般論文33.0%、特集号論文37.7%）、2007年は39.6%（一般論文34.3%、特集号論文55.3%）、2008年は37.0%（一般論文30.7%、特集号論文45.6%）であった。

##### 3. 企画／編集／発行作業

購読者数の増加および投稿論文数の増加を目指して、いくつかの対策を行った。購読者数増については、各号の論文タイトルをRSJ NEWSによって会員へ電子メールにより配信するサービスを開始し、かつ、robotics world wide メーリングリストにも英語による最新号の紹介メールを配布する活動を開始し、論文投稿・購読を呼びかけた。また、投稿論文数増については、日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」を企画し、学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。現在、欧文誌購読会員数は327名であり、2007年と比べて37名の購読者増となっている。今後も更なる増加のための努力を行っていく。

##### 4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index の評価（インパクトファクタ）が0.504となり、多くの有名論文誌と比較して8位と健闘している。これまでの投稿料無料と迅速な査読による質的・量的両面での向上により、また別表に示す国際的認知度の高さによる結果と考えている。今後もランキングの上位を目指して評価の向上を図るべく努力していく。

韓国ロボット学会とのMOUに合わせて、RSJの会員でなくとも韓国ロボット学会の会員であれば、2,900円の購読料（RSJ会員に対する追加購読料と同額）で電子ジャーナルの購読が可能になるように調整を行った。

ICRA2008, IROS2008の開催にあわせて国際編集委員会を開催し、海外の編集委員からの意見を広く聴取した。また、海外委員に今後の特集号の企画への協力を依頼した。こうした編集における国際化の努力もさらに進めていく。

##### 5. 共同事業者である Brill 社との契約・交渉

Brill社から提示されている購読料金は1ライセンスあたり16ユーロであったが、この購読料は年間発行数を15号化する前の12号発行の状態のままであった。年間15号化されている現状を鑑みて1ライセンスあたり17ユーロでの購読料金にして欲しいとの依頼がBrill社からあった。15号化する際に購読料が据え置きであった事を考慮して、この提案を受け入れた。またユーロの為替が不安定であるなどの昨今の経済情勢を熟慮し、2008年まで2,400円であった電子購読の追加料金を2,900円に、またプリント版の追加購読料金を35,000円から52,500円に値上げをさせて頂いた。

また、追加購読料無しでの会員全員購読化を進めることが理事会で正式に決定されたため、最短で2010年度からの全員購読化が実現できるよう、引き続き検討を実施する。

#### V 企 画

##### 1. 研究調査活動（定款第5条3号）

###### 継続の調査研究委員会、研究専門委員会

前年度から継続して、以下の調査研究委員会、研究専門委員会活動を実施。

###### ・ RT 学術技術融合戦略調査研究委員会

（委員長：内山 隆、2006.9発足、2008.4継続）

経産省、人工知能学会、日本人間工学会と連携してロボット分野アカデミックロードマップのローリング作業を実施し、成果を第26回学術講演会において公表。

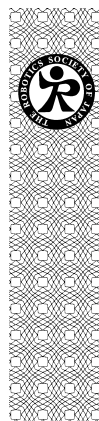
・ ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会（委員長：橋本秀紀、2007.1発足、2008.4継続）

・ 手の巧みさ研究専門委員会

（委員長：星野 聖、2007.1発足、2008.4継続）

###### 新規設置の研究専門委員会

基盤分野、先端分野での研究調査活動、地域支部機能の構築を目指





した新たな研究専門委員会を設置した。

- ・ロボティック・サイエンス研究専門委員会  
(委員長：國吉康夫，2008.4 発足)
  - ・カー・ロボティクス研究専門委員会  
(委員長：永井正夫，2008.4 発足)
  - ・北海道ロボット技術研究専門委員会  
(委員長：小林幸徳，2008.4 発足)
  - ・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会  
(委員長：長谷川勉，2008.4 発足)
  - ・ロボット教育研究専門委員会 (委員長：佐藤知正，2008.8 発足)  
また，新たな活性化の取り組みとして，「学生やポストドク研究者による自発的な研究コミュニティ形成活動」の積極的支援を行うことを目指した新たな研究専門委員会の設置を検討した。
2. 規約等の制定・整備
- ・表彰規定の改定
    - 1) ロボット活用社会貢献賞の新設に伴い，表彰委員会規定を改定した。
    - 2) 功労賞新設に伴い，功労賞選考規程を制定すると共に表彰委員会規定を改定した。
    - 3) 非会員著者の優秀論文表彰に対する基本的考え方を検討し，会員非会員を問わず全員に贈呈するよう表彰委員会規定を改定。
  - ・研究専門委員会の設置基準改定  
研究専門委員会のタイムリーな発足を目的に設置基準を改定。
  - ・緊急時の対応に関する内規の改定  
学会のリスク管理を強化するために慶弔等に関する内規および緊急連絡に関する内規の改定を実施。
  - ・フェロー推薦等に関する内規  
フェロー推薦枠の拡大を目的に内規の改定を検討。
3. 表彰 (定款第 5 条 4 号)
- ・以下の 2 件の表彰を新設した。
    - 1) ロボット活用社会貢献賞：ロボットやロボティクスを様々な形で社会に普及・浸透させ，あるいは社会を変革することで，「ロボット活用社会」の実現に向けた歩みに大きく貢献した個人・団体
    - 2) 功労賞：本会の運営ならびに諸活動に対して，特に顕著な具体的貢献を成した個人
  - ・2008 年 9 月第 26 回学術講演会において，論文賞 4 件，実用化技術賞 2 件，研究奨励賞 12 件，功労賞 1 件の贈賞を行った。
  - ・ファナック FA ロボット財団の論文賞に 3 件を推薦し，内 1 件が論文賞 (賞金 100 万円) を受賞した。
  - ・(財) 東レ科学振興会の東レ科学技術研究助成に 2 件を推薦し，内 1 件が採択された。

#### 【論文賞】

- ・「脚タスクモデルを用いた 2 足歩行ヒューマノイドロボットによる人の舞踊動作の再現」  
(日本ロボット学会誌 第 24 巻第 3 号，pp.388-399)  
中岡慎一郎<sup>\*1</sup>，中澤篤志<sup>\*2</sup>，金広文男<sup>\*3</sup>，金子健二<sup>\*3</sup>，森澤光晴<sup>\*3</sup>，比留川博久<sup>\*3</sup>，池内克史<sup>\*4</sup>  
(<sup>\*1</sup> 東京大学/現：産業技術総合研究所 <sup>\*2</sup> 大阪大学 <sup>\*3</sup> 産業業技術総合研究所 <sup>\*4</sup> 東京大学)
- ・「柔軟指による物体把持と操作における力学の実験的解明」  
(日本ロボット学会誌 第 25 巻第 6 号，pp.951-959)  
井上貴浩<sup>\*1</sup>，平井慎一<sup>\*2</sup>  
(<sup>\*1</sup> 岡山県立大学 <sup>\*2</sup> 立命館大学)
- ・「多点瞬時解析高速ビジョンによる運動/変形物体のリアルタイム三次元センシング」  
(日本ロボット学会誌 第 25 巻第 6 号，pp.1005-1013)  
渡辺義浩<sup>\*</sup>，小室 孝<sup>\*</sup>，石川正俊<sup>\*</sup>  
(<sup>\*</sup> 東京大学)
- ・「Feeling a rigid virtual world through an impulsive haptic display」  
(Advanced Robotics, Vol. 21, No. 12, pp.1411-1440)  
Emmanuel B. Vander Poorten<sup>\*1</sup> and Yasuyoshi Yokokohji<sup>\*2</sup>  
(<sup>\*1</sup> Katholieke Universiteit Leuven <sup>\*2</sup> Kyoto University)

#### 【実用化技術賞】

- ・「連結式医薬品容器交換ロボット」  
青山 元<sup>\*1</sup>，石川和良<sup>\*1</sup>，関 淳也<sup>\*1</sup>，石村左緒里<sup>\*1</sup>，薩見雄一<sup>\*1</sup>，橋ヶ谷修司<sup>\*2</sup>，大石芳明<sup>\*2</sup> (<sup>\*1</sup> 富士重工業 (株) <sup>\*2</sup> (株) ツムラ)
- ・「複数台の M-430iA のビジュアルトラッキングによる高速ハンドリング」  
稲葉善治<sup>\*</sup>，二瓶 亮<sup>\*</sup>，田村敏功<sup>\*</sup>，樽林秀倫<sup>\*</sup>，田中康好<sup>\*</sup>  
(\*ファナック (株))

#### 【研究奨励賞】

- ・池田健輔 (岡山大学/現：(株) ソニー・コンピュータエンタテインメント)  
「空気圧アクチュエータを用いた歩行支援装置の開発」
- ・稲邑哲也 (国立情報学研究所/総合研究大学院大学)  
「人間ロボット間の対話に基づく協調的タスク遂行のための確率的空間記憶モデル」
- ・井上貴浩 (岡山県立大学)  
「力制御入力を必要としない把持対象物姿勢積分制御手法の提案 目標関節角を生成する積分制御器と関節角 PD 制御器の 2 段構成」
- ・金田さやか (京都大学)  
「金波を用いた小天体探査ローバの位置同定」
- ・神永 拓 (東京大学)  
「ハイドロスタティックトランスミッションを用いた駆動機構をもつロボットハンドの開発」
- ・玄 相晃 (独) 科学技術振興機構/(株) 国際電気通信基礎技術研究所  
「冗長自由度を有する脚式ロボットの実用的な接触力制御手法とバランス制御への応用」
- ・小林祐一 (東京農工大学)  
「人と接するロボットのための認識・対話設計法 Petri-net と最適制御からのアプローチ」
- ・多田隈建二郎 (マサチューセッツ工科大学/現：電気通信大学)  
「球状全方向車輪 "Omni-Ball"」
- ・寺田耕志 (東京大学/現：トヨタ自動車 (株))  
「重心の鉛直運動を含む二足歩容の高速生成法」
- ・土肥徹次 (東京大学)  
「高分解能 MRI 画像取得のための MEMS 立体コイル」
- ・平塚啓悟 (東京理科大学)  
「加速度計を用いた住宅内における乳幼児溺れ防止システムの試作」
- ・渡辺哲陽 (山口大学/現：金沢大学)  
「把持システムのための関節トルク・速度対に基づく可操作性」

#### 【功労賞】

- ・倉爪 亮 (九州大学)

#### 【ファナック FA ロボット財団論文賞】

- ・石川和良，青山 元，関 淳也，岡村三男，石村左緒里，尾崎功一，横田和隆，山本純雄  
「屋外清掃ロボットの実用化」  
(日本ロボット学会誌 第 25 巻第 6 号，pp.802-812)

#### 【東レ科学技術研究助成】

- ・森島圭祐 (東京農工大)  
「細胞ビルドアップ型ソフトマシンの構築と機能創発」

#### VI 国 際

1. 国際委員会の活動並びに国際交流の基本方針の策定 (定款第 5 条 5 号，6 号)

日本ロボット学会の国際交流の基本方針の策定作業並びに国際活動の実務を遂行する (第 2 期) 国際委員会 (大山英明 国際担当理事/国際委員会委員長 (産総研)，大隅 久 国際担当理事/国際委員会幹事 (中央大学)，國井康晴 (中央大学)，梶本裕之 (電気通信大学)，菊池耕生 (千葉工業大学)，城間直司 (茨城大学)，中村太郎 (中央大学)，並木明夫 (千葉大学)，水内郁夫 (東京大学)) が活動している。ただし，国際交流の基本方針の策定や国際活動の実務等の作業は，現在の日本ロボット学会国際委員会規程に含まれていないため，規程を改訂中である。日本ロボット学会の国際活動の実務を行うと共に，国際活動の基本方針の案を社会貢献と会員サービス向上の観点から作成して

いる。基本方針は、理事会で検討中である。

## 2. 国際交流活動 (定款第5条5号, 6号)

### (1) 第3回アジアロボットサミット (3rd Asian Robotics Society Summit Meeting (ARSSM)) の開催

IROS 2009 の期間中に、以下のように開催された。

- ・日 時：2008年10月24日12時～13時30分
- ・場 所：The foyer HERMES, Acropolis Convention and Exhibition Center
- ・参加学会：オーストラリア Australia Robotics & Automation Association (ARAA), 中国 The CAA Robotics Society (CAA: Chinese Association of Automation), 韓国 Korea Robotics Society (旧略称 KRS, 現 KROS), シンガポール Robotics Society of Singapore, タイ Thai Robotics Society (TRS)

#### ・合意事項

##### －次回 ARSSM

IROS 2009, 2009年10月13日前後, セントルイス (米国), ただし, 表彰式等も考慮し, 日程調整には配慮が必要。

－ARSU の Website (<http://www.asian-robotics.org/>) を活動の拠点とし, 充実を図る。(a) 各国ロボット研究の現状, (b) ロボット学会の現状, (c) 各学会の受賞論文, 受賞技術の紹介, (d) ロボット学やロボット市場に関する記事, (e) 人物紹介

##### －事務局設立

- ・次期事務局長：大隅国際担当理事
- ・各国よりスタッフを最低一名出して貰う。

##### －合意に基づく検討課題

(a) 人物紹介, (b) 共同研究の促進, (c) 人的交流, (d) ARSU 主催の国際会議

##### －合意に基づいて, 具体的な取り組みが早急に必要とされる課題

(a) 定款・規約の作成, (b) Young Researchers Network 立ち上げ, (c) 新しい参加国として, インド, マレーシアの情報収集, (d) ロボット教育 (ロボット教育のワーキンググループの立ち上げ),

### (2) アジアロボット学会連合 (ARSU: Asian Robotics Society Union) の活動

本年度より, ARSU のウェブサイト <http://www.asian-robotics.org/> を開設。現在, 第3回アジアロボットサミットでの議論を経て, アップデート中である。

### (3) 第1回, 第2回アジアロボットサミットの合意事項の推進

以下のような合意事項を推進するための検討を行った。

- ・アジアロボットサミット参加国のロボット学会会員は, 会員価格での相互の国際ジャーナル (Advanced Robotics, Journal of Intelligent Service Robotics (韓国) 等) を購読できること。
  - －現在, 韓国ロボット学会とのみ実現。
- ・Young Researchers Network/Network of Excellent Young Researchers の設立。
- ・研究成果の共有。
- ・教科書等の翻訳を含む教育の推進協力。
  - －オーム社がロボット工学ハンドブックを中国語へ翻訳した。

### (4) 第26回日本ロボット学会学術講演会国際セッション (定款第5条5号)

第26回日本ロボット学会学術講演会では, 日本滞在中の外国人研究者の学術講演会への参加を促進し, また, 外国人研究者による最先端の発表を会員に提供するため, セッションの司会, 発表, 質疑応答の全てが, 原則として英語で行われる国際セッションを設けた。

・合計21件の投稿と1件のプレゼン申込があり, 3テーマ, 4セッションを設けた。

座長, スタッフ, 学生アルバイトを除いて, 数えた参加者の数は以下の通り。

Sept. 9th [1C2] Humanoids 約42名  
Sept. 9th [1C3] Ongoing Collaborations in Robotics between Japan

and Foreign Institutions 約26名  
Sept. 10th [2C1] Robotics Research by Overseas Researchers in Japan-I 約26名

Sept. 10th [2C2] Robotics Research by Overseas Researchers in Japan-II 約24名

推定で120名を超える参加者があった。

#### ・改善点

(a) 二足歩行のセッションと重なったため, 国際セッションの Humanoids に, 日本人の専門家が十分集まらず, 質疑応答が寂しいものになってしまった。スケジュール作成には問題があった。

(b) アジアロボット学会連合を中心とするセッションの準備が間に合わず, 開催できなかった。

### (5) 韓国ロボット学会 (Korea Robotics Society, 旧略称 KRS, 現 KROS) との MOU のフォロー

・URAI 2009 (October 28-31, 2009, Gwangju (光州), Korea) を協賛する。

URL : <http://www.kros.org/urai2009/>

・以下のような合意事項推進のための検討を行った。

- ・定期的共催会議の開催。
- ・セミナー・ワークショップ等の共同企画。
- ・学生交流等に関して協力すること。

### (6) IROS における Best Paper Award, Fumio Harashima Award のフォロー。

## 3. 情報発信, その他 (定款第5条5号, 6号)

### (1) 英文ホームページの更新

- 1) 日本語版のホームページの更新に合わせて, 英語ページを更新している。
- 2) ロボット学会定款規程の英文への翻訳を行った。
- 3) 電子化委員会と協力して, ホームページの改善に取り組んだ。

### (2) ARSU ホームページの更新

## 4. 国際会議共催/協賛 (定款第5条1号, 5号)

本会に関連する国際会議を共催, 協賛, 後援した。

主な共催・協賛会議:

### (1) 13th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 13th '08) (協賛)

期日: 2008年1月31日～2月2日, 会場: 大分, 日本

### (2) 17th IEEE Int'l Workshop on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2008) (共催)

期日: 2008年8月1日～3日, 会場: Munich, Germany

### (3) 2008 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation (IEEE ICMA 2008) (協賛)

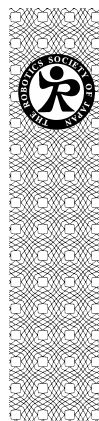
期日: 2008年8月5日～8月8日, 会場: 香川, 日本

### (4) 2008 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2008) (共催)

期日: 2008年9月22日～9月26日, 会場: Nice, France

### (5) 2008 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS2008) (協賛)

期日: 2008年11月6日～11月9日, 会場: 名古屋, 日本



## 【第2号議案】

平成20年度収支決算書報告

正味財産増減計算書  
平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

(単位：円)

## I 一般会計

貸借対照表  
平成20年12月31日現在

科 目	金 額
(単位：円)	
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	54,540,051
現金	131,412
普通預金	38,397,859
振替口座	15,006,624
通常貯金	1,004,156
未収会費	2,078,000
未収金	1,987,150
前払金	614,023
立替金	28,800
仮払金	40,109
流動資産合計	59,288,133
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
定期預金 自由金利型定期	21,000,000
基本財産合計	21,000,000
(2) 特定資産	
退職給付引当資産	4,431,414
特定資産合計	4,431,414
(3) その他固定資産	
電話加入権	153,100
敷金	63,000
保証金	2,500,000
その他固定資産合計	2,716,100
固定資産合計	28,147,514
資産合計	87,435,647
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	621,365
前受会費	26,168,000
預り金	852,280
仮受金	30,400
前受金	252,000
流動負債合計	27,924,045
2. 固定負債	
退職給付引当金	4,431,414
固定負債合計	4,431,414
負債合計	32,355,459
III 正味財産の部	
一般正味財産	55,080,188
正味財産合計	55,080,188
負債及び正味財産合計	87,435,647

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①基本財産運用益	84,230
基財産利息収入	84,230
②受取入金	538,000
正会員入会金収入	123,000
学生会員入会金収入	415,000
③受取会費	43,976,000
正会員会費収入	30,680,000
学生会員会費収入	5,056,000
賛助会員会費収入	8,240,000
④事業収益	42,695,566
会誌掲載料収入	15,608,775
欧文誌事業収入	1,800,000
学術講演会収入	22,608,591
講習会収入	2,678,200
⑤雑収益	10,952,286
受取利息	89,609
広告料収入	6,914,504
資料頒布収入	2,975,540
雑収入	972,633
経常収益計	98,246,082
(2) 経常費用	
①事業費	48,448,473
会誌事業費	22,553,622
出版費	15,887,653
郵送費	5,113,829
編集費	1,552,140
欧文誌事業費	3,681,852
編集費	450,732
業務委託費	2,880,000
出版費	351,120
学術講演会開催費	16,497,591
講習会開催費	1,437,809
電子化運営委員会費	2,228,359
研究専門委員会費	960,000
調査専門委員会費	0
広告製作費	664,189
表彰費	425,051
②管理費	35,923,742
総会費	790,154
給料手当	15,792,750
臨時雇賃金	3,259,475
退職金	0
退職給付引当金繰入額	754,574
福利厚生費	1,316,718
旅費交通費	16,840
通信運搬費	503,032
備品消耗品費	469,449
会議費	794,690
印刷製本費	759,457
光熱水料費	340,155
賃借料	7,062,752
災害保険料	0
諸謝金	1,249,780
租税公課	949,100
会費収納費	833,042
雑費	1,031,774

③雑損失	994,833
経常費用計	85,367,048
当期経常増減額	12,879,034
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
退職金給付引当預金取崩収入	0
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
①固定資産除却損	0
②他会計への繰出額	10,000,000
学術集会開催基金繰出額	5,000,000
刊行物発行基金繰出額	5,000,000
国際会議等開催基金繰出額	0
経常外費用計	10,000,000
当期経常外増減額	△ 10,000,000
当期一般正味財産増減額	2,879,034
一般正味財産期首残高	52,201,154
一般正味財産期末残高	55,080,188
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	55,080,188

財務諸表に対する注記

- 重要な会計方針
  - 固定資産の減価償却の方法  
減価償却の償却方法は定額法による。
  - 引当金の計上基準  
退職給与引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。
  - 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。
- 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高  
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基 本 財 産				
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
小 計	21,000,000	0	0	21,000,000
特 定 資 産				
退職給付引当資産	3,676,840	754,574	0	4,431,414
小 計	3,676,840	754,574	0	4,431,414
合 計	24,676,840	754,574	0	25,431,414

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

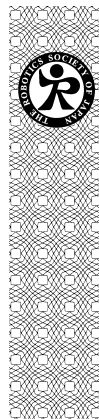
科 目	前期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基 本 財 産				
定期預金	21,000,000	( 0)	(21,000,000)	—
小 計	21,000,000	( 0)	(21,000,000)	
特 定 資 産				
退職給付引当資産	4,431,414	—	( 0)	( 4,431,414)
小 計	4,431,414	( 0)	( 0)	( 4,431,414)
合 計	25,431,414	( 0)	(21,000,000)	( 4,431,414)

収 支 計 算 書

平成 20 年 1 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
(1) 基本財産運用収入	84,230
基本財産受取利息収入	84,230
(2) 入金収入	538,000
正会員入金収入	123,000
学生会員入金収入	415,000
(3) 会費収入	43,976,000
正会員会費収入	30,680,000
学生会員会費収入	5,056,000
賛助会員会費収入	8,240,000
(4) 事業収入	42,695,566
会誌掲載料収入	15,608,775
欧文誌事業収入	1,800,000
学術講演会収入	22,608,591
講習会収入	2,678,200
(5) 雑収入	10,952,286
受取利息	89,609
広告料収入	6,914,504
資料頒布収入	2,975,540
雑収入	972,633
事業活動収入計	98,246,082
2. 事業活動支出	
(1) 事業費支出	48,448,473
① 会誌事業費支出	22,553,622
出版費支出	15,887,653
郵送費支出	5,113,829
編集費支出	1,552,140
② 欧文誌事業費支出	3,681,852
編集費支出	450,732
業務委託費支出	2,880,000
出版費支出	351,120
③ 学術講演会開催費支出	16,497,591
④ 講習会開催費支出	1,437,809
⑤ 電子化運営委員会支出	2,228,359
⑥ 専門委員会費支出	960,000
研究専門委員会費支出	960,000
調査専門委員会費支出	0
⑦ 広告制作費支出	664,189
⑧ 表彰費支出	425,051





お 知 ら せ

(2) 管理費支出	35,169,168
総会費支出	790,154
給料手当支出	15,792,750
臨時雇賃金支出	3,259,475
福利厚生費支出	1,316,718
旅費交通費支出	16,840
通信運搬費支出	503,032
備品消耗品支出	469,449
会議費支出	794,690
印刷製本費支出	759,457
光熱水料費支出	340,155
賃借料支出	7,062,752
諸謝金支出	1,249,780
租税公課支出	949,100
会費取納費支出	833,042
雑費支出	1,031,774
(3) 雑損失支出	994,833
事業活動支出計	84,612,474
事業活動収支差額	13,633,608
II 投資活動収入の部	
1. 投資活動収入	0
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
(1) 特定資産取得支出	754,574
退職給付引当資産取得支出	754,574
投資活動支出計	754,574
投資活動収支差額	△ 754,574
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	0
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
(2) 他会計への繰入金支出	10,000,000
学術集会開催基金繰入金支出	5,000,000
刊行物発行基金繰入金支出	5,000,000
財務活動支出計	10,000,000
財務活動収支差額	△ 10,000,000
IV 予備費支出	0
当期収支差額	2,879,034
前期繰越収支差額	28,485,054
次期繰越収支差額	31,364,088

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金・預金の他、未収会費、未収金、前払金、立替金、仮払金、未払金、前受会費、預り金、仮受金及び前受金を含んでいる。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	49,928,051	54,540,051
未収会費	2,188,000	2,078,000
未収金	3,538,382	1,987,150
前払金	990,427	614,023
立替金	43,200	28,800
仮払金	61,950	40,109
合計	56,750,010	59,288,133
未払金	621,785	621,365
前受会費	26,866,000	26,168,000
預り金	739,671	852,280
仮受金	37,500	30,400
前受金	0	252,000
合計	28,264,956	27,924,045
次期繰越収支差額	28,485,054	31,364,088

II 刊行物発行基金

貸借対照表  
平成20年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 固定資産	
(1) その他固定資産	
普通預金	40,130,895
定期預金	20,069,731
その他固定資産合計	60,200,626
固定資産合計	60,200,626
資産合計	60,200,626
II 負債の部	
1. 流動負債	
仮受金	40,109
流動負債合計	40,109
負債合計	40,109
III 正味財産の部	
一般正味財産	60,160,517
正味財産合計	60,160,517
負債及び正味財産合計	60,200,626

正味財産増減計算書

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①雑収益	144,505
受取利息	144,505
経常収益計	144,505
当期経常増減額	144,505
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
①他会計からの繰入額	5,000,000
一般会計からの繰入額	5,000,000
経常外収益計	5,000,000
当期経常外増減額	5,000,000
当期一般正味財産増減額	5,144,505
一般正味財産期首残高	55,016,012
一般正味財産期末残高	60,160,517
II 正味財産期末残高	60,160,517

収支計算書

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
刊行物発行基金繰入	5,144,505	受取利息収入	144,505
		一般会計繰入金収入	5,000,000
合計	5,144,505	合計	5,144,505



III 学術集会開催基金

貸借対照表  
平成20年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 固定資産	
(1) その他固定資産	
普通預金	34,537,250
定期預金	23,123,610
その他固定資産合計	57,660,860
固定資産合計	57,660,860
資産合計	57,660,860
II 正味財産の部	
一般正味財産	57,660,860
正味財産合計	57,660,860
負債及び正味財産合計	57,660,860

正味財産増減計算書

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①雑収益	134,616
受取利息	134,616
経常収益計	134,616
当期経常増減額	134,616
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
①他会計からの繰入額	5,000,000
一般会計からの繰入額	5,000,000
経常外収益計	5,000,000
当期経常外増減額	5,000,000
当期一般正味財産増減額	5,134,616
一般正味財産期首残高	52,526,244
一般正味財産期末残高	57,660,860
II 正味財産期末残高	57,660,860

収支計算書

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学術集会開催基金繰入	5,134,616	受取利息収入	134,616
		一般会計繰入金収入	5,000,000
合 計	5,134,616	合 計	5,134,616

IV 国際会議および共催会議開催基金

貸借対照表  
平成20年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 固定資産	
(1) その他固定資産	
普通預金	19,113,298
仮払金	5,570,740
その他固定資産合計	24,684,038
固定資産合計	24,684,038
資産合計	24,684,038
II 正味財産の部	
一般正味財産	24,684,038
正味財産合計	24,684,038
負債及び正味財産合計	24,684,038

正味財産増減計算書

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

(単位：円)

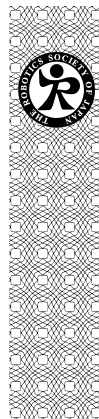
科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①雑収益	312,253
受取利息	39,655
雑収入	272,598
経常収益計	312,253
(2) 経常費用	
①事業費	607,445
表彰費	148,035
雑 費	459,410
経常費用計	607,445
当期経常増減額	△ 295,192
2. 経常外増減の部	
(3) 経常外収益	
①他会計からの繰入額	0
一般会計からの繰入額	0
経常外収益計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△ 295,192
一般正味財産期首残高	24,979,230
一般正味財産期末残高	24,684,038
II 正味財産期末残高	24,684,038

収支計算書

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
表 彰 費	148,035	受取利息収入	39,655
雑 費	459,410	雑 収 入	272,598
		国際会議等開催基金取崩収入	295,192
合 計	607,445	合 計	607,445



## V 総 括 表

貸借対照表総括表  
平成 20 年 12 月 31 日現在

科 目	(単位：円)					合 計
	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金	内部取引 消去	
I 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金	54,540,051					54,540,051
現 金	131,412					131,412
普通預金	38,397,859					38,397,859
振替口座	15,006,624					15,006,624
通常貯金	1,004,156					1,004,156
未収会費	2,078,000					2,078,000
未収金	1,987,150					1,987,150
前払金	614,023					614,023
立替金	28,800					28,800
仮払金	40,109				△ 40,109	0
流動資産合計	59,288,133				△ 40,109	59,248,024
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
定期預金	21,000,000					21,000,000
基本財産合計	21,000,000					21,000,000
(2) 特定資産						
退職給付引当資産	4,431,414					4,431,414
特定資産合計	4,431,414					4,431,414
(3) その他固定資産						
電話加入権	153,100					153,100
敷 金	63,000					63,000
保証金	2,500,000					2,500,000
普通預金		40,130,895	34,537,250	19,113,298		93,781,443
仮払金				5,570,740		5,570,740
定期預金		20,069,731	23,123,610			43,193,341
その他固定資産合計	2,716,100	60,200,626	57,660,860	24,684,038		145,261,624
固定資産合計	28,147,514	60,200,626	57,660,860	24,684,038		170,693,038
資 産 合 計	87,435,647	60,200,626	57,660,860	24,684,038	△ 40,109	229,941,062
II 負債の部						
1. 流動負債						
未払金	621,365					621,365
前受会費	26,168,000					26,168,000
預り金	852,280					852,280
仮受金	30,400					30,400
前受金	252,000	40,109			△ 40,109	252,000
流動負債合計	27,924,045	40,109			△ 40,109	27,924,045
2. 固定負債						
退職給付引当金	4,431,414					4,431,414
固定負債合計	4,431,414					4,431,414
負 債 合 計	32,355,459	40,109			△ 40,109	32,355,459
III 正味財産の部						
一般正味財産	55,080,188	60,160,517	57,660,860	24,684,038		197,585,603
正味財産合計	55,080,188	60,160,517	57,660,860	24,684,038		197,585,603
負債及び正味財産合計	87,435,647	60,200,626	57,660,860	24,684,038	△ 40,109	229,941,062

正味財産増減計算書総括表  
平成 20 年 1 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで  
(単位：円)

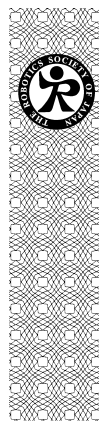
科 目	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金	内部取引 消去	合 計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
①基本財産運用益	84,230					84,230
基本財産利息収入	84,230					84,230
②受取入金	538,000					538,000
正会員入金収入	123,000					123,000
学生会員入金収入	415,000					415,000
③受取会費	43,976,000					43,976,000
正会員会費収入	30,680,000					30,680,000
学生会員会費収入	5,056,000					5,056,000
賛助会員会費収入	8,240,000					8,240,000
④事業収益	42,695,566					42,695,566
会誌掲載料収入	15,608,775					15,608,775
欧文誌事業収入	1,800,000					1,800,000
学術講演会収入	22,608,591					22,608,591
講習会収入	2,678,200					2,678,200
⑤雑収入	10,952,286	144,505	134,616	312,253		11,543,660
受取利息	89,609	144,505	134,616	39,655		408,385
広告料収入	6,914,504					6,914,504
資料頒布収入	2,975,540					2,975,540
雑 収 入	972,633			272,598		1,245,231
経常収益計	98,246,082	144,505	134,616	312,253	0	98,837,456
(2) 経常費用						
①事業費	48,448,473			607,445		49,055,918
会誌事業費	22,553,622					22,553,622
出版費	15,887,653					15,887,653
郵 送 費	5,113,829					5,113,829
編 集 費	1,552,140					1,552,140
欧文誌事業費	3,681,852					3,681,852
編 集 費	450,732					450,732
業務委託費	2,880,000					2,880,000
出版費	351,120					351,120
学術講演会開催費	16,497,591					16,497,591
講習会開催費	1,437,809					1,437,809
電子化運営委員会費	2,228,359					2,228,359
研究専門委員会費	960,000					960,000
広告制作費	664,189					664,189
表 彰 費	425,051			148,035		573,086
雑 費	0			459,410		459,410
②管理費	35,923,742					35,923,742
総 会 費	790,154					790,154
給 料 手 当	15,792,750					15,792,750
臨時雇賃金	3,259,475					3,259,475
退職給付引当金繰入額	754,574					754,574
福利厚生費	1,316,718					1,316,718
旅費交通費	16,840					16,840
通信運搬費	503,032					503,032
備品消耗品費	469,449					469,449
会 議 費	794,690					794,690
印刷製本費	759,457					759,457
光熱水料費	340,155					340,155
賃 借 料	7,062,752					7,062,752
諸 謝 金	1,249,780					1,249,780
租 税 公 課	949,100					949,100
会費収納費	833,042					833,042
雑 費	1,031,774					1,031,774
③雑損失	994,833					994,833
経常費用計	85,367,048	0	0	607,445	0	85,974,493
当期経常増減額	12,879,034	144,505	134,616	△ 295,192	0	12,862,963

2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
① 総会計からの繰入額		5,000,000	5,000,000	0	△10,000,000
一般会計からの繰入額		5,000,000	5,000,000	0	△10,000,000
経常外収益計	0	5,000,000	5,000,000	0	△10,000,000
(2) 経常外費用					
① 総会計への繰出額	10,000,000				△10,000,000
学術集会所費基金繰出額	5,000,000				△5,000,000
刊行物発行基金繰出額	5,000,000				△5,000,000
経常外費用計	10,000,000	0	0	0	△10,000,000
当期経常外増減額	△10,000,000	5,000,000	5,000,000	0	0
当期一般正味財産増減額	2,879,034	5,144,505	5,134,616	△295,192	12,862,963
一般正味財産期首残高	52,201,154	55,016,012	52,526,244	24,979,230	184,722,640
一般正味財産期末残高	55,080,188	60,160,517	57,660,860	24,684,038	197,585,603
Ⅱ 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	55,080,188	60,160,517	57,660,860	24,684,038	197,585,603

財 産 目 録  
平成 20 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金 手許有高	131,412
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	17,980,977
〃 みずほ銀行本郷支店	7,526,323
〃 みずほ銀行本郷支店	9,545,141
〃 りそな銀行本郷支店	3,345,418
振替口座 ゆうちよ銀行	15,006,624
通常預金 ゆうちよ銀行	1,004,156
未収会費 会費 平成 20 年度分	2,078,000
未収金 学会誌投稿料・広告料他	1,987,150
前払金 平成 21 年 1 月分事務所家賃他	614,023
立替金 欧文誌購読料	28,800
流動資産合計	59,248,024
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
定期預金 基本財産 (三菱東京 UFJ 銀行 自由金利型定期)	21,000,000
基本財産合計	21,000,000
(2) 特定資産	
退職給付引当資産 定期預金 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	4,431,414
特定資産合計	4,431,414
(3) その他固定資産	
電話加入権 2 本	153,100
敷金 賃貸借契約敷金	63,000
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000
刊行物発行基金 普通預金 みずほ銀行本郷支店	22,033,893
〃 〃 三井住友銀行小石川支店	18,097,002
〃 〃 定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	10,000,000
〃 〃 りそな銀行本郷支店	10,069,731
学術集会所費基金 普通預金 りそな銀行本郷支店	24,374,117
〃 〃 三菱 UFJ 信託銀行本店	10,163,133
〃 〃 定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	10,123,610
〃 〃 三菱 UFJ 信託銀行本店	13,000,000
国際会議および 普通預金 りそな銀行本郷支店	19,113,298
共催会議開催基金 仮払金 IROS2006～2009 分担金	5,570,740
その他の固定資産合計	145,261,624
固定資産合計	170,693,038
資産合計	229,941,062



II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	会計顧問料他	621,365		
前受会費	会費前受分	26,168,000		
預り金	源泉所得税	151,969		
〃	住民税	16,500		
〃	社会保険料	286,511		
〃	欧文誌購読料	397,300		
仮受金	2008年度退会者会費他	30,400		
前受金	学会誌広告料	252,000		
	流動負債合計		27,924,045	
2. 固定負債				
退職給付引当金	退職給付分	4,431,414		
	固定負債合計		4,431,414	
	負債合計			32,355,459
	正味財産			197,585,603

監 査 報 告 書

社団法人 日本ロボット学会  
会 長 佐 藤 知 正 殿

私共監事2名は、この総会資料に記載されている平成20年度の事業報告書ならびに同年度の一般会計、刊行物発行基金、学術集会開催基金、国際会議および共催会議開催基金に関する収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録などにつき監査を実施しました。

監査の結果、いずれも新たな特例民法法人（公益法人）の会計基準に準拠しつつ、前年度と同一の会計方針を適用しており、また定款の定め  
に準拠しているものと認めます。

以 上

平成21年3月3日  
社団法人 日本ロボット学会  
監 事 橋 野 賢 ㊟  
監 事 内 山 隆 ㊟



## 【第3号議案】

平成 21 年度 事業計画案  
(自平成 21 年 1 月 1 日 至平成 21 年 12 月 31 日)

## I 庶 務

## 1. 第 27 回総会

会 期：平成 21 年 3 月 10 日 (火)  
会 場：本郷瀬川ビル

## 2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| (1) 会誌編集委員会             | (委員長：三浦 純)  |
| (2) 欧文誌委員会              | (委員長：稲岳哲也)  |
| (3) 事業計画委員会             | (委員長：相山康道)  |
| (4) 国際委員会               | (委員長：大隅 久)  |
| (5) 研究協議会               | (委員長：佐久間一郎) |
| (6) 出版事業委員会             | (委員長：相山康道)  |
| (7) 電子化運営委員会            | (委員長：川村貞夫)  |
| (8) アドバイザリーボード          | (委員長：榊原伸介)  |
| (9) 将来ビジョン策定委員会         | (委員長：榊原伸介)  |
| (10) 事務局体制検討委員会         | (委員長：川村貞夫)  |
| (11) 第 27 回学術講演会実行委員会   | (委員長：藪田哲郎)  |
| (12) 表彰委員会              | (委員長：佐久間一郎) |
| (13) 第 23 回論文賞選考小委員会    | (委員長：佐久間一郎) |
| (14) 第 24 回研究奨励賞選考小委員会  | (委員長：榊原伸介)  |
| (15) 第 25 回研究奨励賞選考小委員会  | (委員長：川村貞夫)  |
| (16) 第 14 回実用化技術賞選考小委員会 | (委員長：川村貞夫)  |
| (17) 外部表彰選考小委員会         | (委員長：佐久間一郎) |
| (18) 会員 5000 名拡大計画委員会   | (委員長：榊原伸介)  |
| (19) 著作権管理委員会           | (委員長：佐久間一郎) |
| (20) 学術講演会管理推進委員会       | (委員長：佐久間一郎) |

## 3. 役員・評議員の選出

平成 21 年度の理事・監事、ならびに評議員を選出する。

## 4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

## 5. 学会の基盤強化

生涯にわたり価値ある学会とするため、若年層、超ベテラン層の会員体系の検討を行う。更に、若年層への啓蒙活動については、試行を開始する。広報活動を重視した入会勧誘活動は引き続き推進する。

## 6. 電子化運営委員会

- ロボット学会運営の効率化、会員サービスの向上に向け、学会 DB の再構築を実施する。
- 学会ホームページを通じた、会員サービス拡大を目指し、一般向けサービスとして電子化ロボット用語集、全国ロボット研究室紹介を設ける。また、会員限定サービスとして、学会員の個人情報データベース編集・検索機能を設け、さらに会員名簿電子化、学会誌アーカイブ／AR 誌会員全員購読化などのサービスコンテンツの充実を図る。

## 7. 事務局

学会の将来ビジョンの迅速な実行を進めるとともに、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

## II 事 業 (定款第 5 条 1 号)

## 1. 学術講演会・シンポジウム等

- 第 27 回学術講演会  
期 日：2009 年 9 月 15 日 (火) ～ 17 日 (木)  
会 場：横浜国立大学  
実行委員長：藪田哲郎 (横浜国立大学)  
プログラム委員長：河村篤男 (横浜国立大学)

## 2. ロボット工学セミナー

- 第 50 回シンポジウム「生活空間をセンシングする環境知能化」  
期 日：2009 年 4 月 24 日 (金)  
会 場：日本科学未来館
- 第 51 回シンポジウム「ロボットの作り方 2009」

期 日：2009 年 5 月 (予定)

会 場：東京工業大学大岡山キャンパス (予定)

## (3) 第 52 回シンポジウム「世界をリードする日本の IRT」

期 日：2009 年 6 月 (予定)

会 場：東京大学本郷キャンパス (予定)

## (4) 第 53 回シンポジウム「デジタルヒューマンの使い方」

期 日：2009 年 7 月 (予定)

会 場：産業総合技術研究所臨海副都心センター (予定)

## (5) 第 54 回シンポジウム「産業現場で望まれるロボット技術」

期 日：2009 年 10 月 (予定)

会 場：未定

## (6) 第 55 回シンポジウム「ロボットの知能とアフォーダンス」

期 日：2009 年 11 月 (予定)

会 場：未定

## 3. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。  
国内共催事業 (予定を含む)：

## (1) 第 14 回ロボティクスシンポジウム

期 日：2009 年 3 月 16 日 (月)・17 日 (火)

会 場：登別温泉 石水亭 (北海道)

実行委員長：田中孝之 (北海道大学)

プログラム委員長：鈴木高宏 (東京大学)

## (2) ロボカップジャパンオープン 2009

期 日：未定

開 催 地：未定

## (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2009

期 日：2009 年 6 月 20 日 (土) (予選)・21 日 (日) (予選・決勝)

開 催 地：仙台市科学館

## (4) 第 9 回レスキューロボットコンテスト

期 日：2009 年 8 月 7 日 (金) ～ 9 日 (日) (7 日は一般非公開の予定)

開 催 地：神戸サンボーホール

## 4. 出版事業

「ロボット工学ハンドブック」の改訂を行う委員会を組織する。

## III 学 会 誌 (定款第 5 条 2 号)

学会誌第 27 巻第 1 号より第 10 号を、1 月、3 月、4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月に刊行し、会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。

第 27 巻 1 号 自動車とロボット

第 27 巻 2 号 次世代ロボット共通基盤プロジェクトと RT コンポーネント

第 27 巻 3 号 ニーズに基づいたロボット開発

第 27 巻 4 号 ロボット制御の理論 (仮)

第 27 巻 5 号 宇宙ロボティクス (仮)

第 27 巻 6 号 人間と共存し発展するロボットのためのビジョン (仮)

第 27 巻 7 号 第 26 回日本ロボット学会学術講演会論文特集号 1

第 27 巻 8 号 第 26 回日本ロボット学会学術講演会論文特集号 2

第 27 巻 9 号 ロボットコンテストがもたらしたもの (仮)

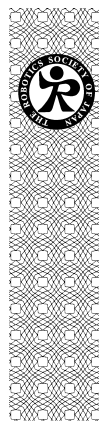
第 27 巻 10 号 戦略的先端ロボット要素技術開発 (仮)

また、平成 21 年度は、前年度に引き続き、魅力的な特集号の企画、一般記事の企画、広告の取得、会誌関連記事の出版化、規程の見直しなどについて取り組む。論文採択率の適正化に向けた検討は、論文カテゴリーの見直しや査読方法の見直しも含めて引き続き行う。学術講演会論文特集号に加え、特定のテーマの論文を公募する形の論文特集号を新たに企画し、具体化を進める。

広告に関しては、広告取入目標を前年と同じ 700 万円と設定し、具体的に達成に向けた取り組みを行う。

ロボコンマガジンに連載している研究紹介を継続して行う。

昨年度に連載を開始したコラム「研究者の日常 or 非日常」に加え、ロボット学に係わる有名人のインタビューをまとめた形式の記事「こ



の人に聞く」の掲載も開始する。

中長期目標として、電子化・国際化戦略に基づき、論文に関連する動画の取り扱い、学会誌の掲載解説記事の英文化や、和文論文の Full translation による欧文誌への掲載、などについて検討する。また、学会誌の12号化についても引き続き検討を行う。

#### IV 欧 文 誌 (定款第5条2号)

##### 1. 欧文誌 (Advanced Robotics) の発行計画

下記のとおり、2009年度においては Vol. 23 の年15回の発行を計画している。なお、No. 2と3, No. 7と8, No. 11と12の3回は、2号ずつの合併号として発行の予定である。

No. 1	09. 1月	発行済	一般論文
No. 2-3	09. 2月	発行予定	一般論文 (Double Issue)
No. 4	09. 3月	発行予定	Cutting Edge of Robotics in Japan
No. 5	09. 4月	発行予定	一般論文 Section Focused on Mobiligence (2)
No. 6	09. 5月	発行予定	一般論文
No. 7-8	09. 6月	発行予定	Biomimetic Robotics (Double Issue)
No. 9	09. 7月	発行予定	Disaster Response Robotics
No. 10	09. 8月	発行予定	Intelligent Robotics and Automation
No. 11-12	09. 9月	発行予定	一般論文 (Double Issue)
No. 13	09. 10月	発行予定	一般論文
No. 14	09. 11月	発行予定	RO-MAN 2008
No. 15	09. 12月	発行予定	IROS 2008

##### 2. 編集体制

2008年度に引き続き菅野重樹編集長の下、15名の欧文誌委員会メンバーを中心に、国際編集委員、アドバイザー委員会のメンバーの協力を得ながら、欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上、さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。また幅広い分野にまたがる投稿論文の内容に適切に対応するために、編集委員の増強を検討している。

##### 3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2007年度からの号数増加と Vol. 21 の特集号企画減により、一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られたので、今後は積極かつ戦略的な特集号企画を行い、国際的な認知度のさらなる向上を図るとともに、Citation Index の評価 (インパクトファクタ) の向上を目指していきたい。さらに、国際貢献の意味も含め、国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として、投稿料無料を堅持する。

購読者数増については、会長の意向を受け、会員サービスの一環として、ロボット学会会員の欧文誌全員購読化に向けた具体策の検討を2007年度より継続的に行っており、学会として正式に全員無料購読化を進めることが決定した。現在までに問題となっていた、購読キーの発行までの所要時間が長い点を改善するべく、2009年度は電子購読の認証システムの構築に着手し、購読キーの発行や管理を簡便化した上で全員購読が可能になるシステムの構築を進め、より良いサービスを広く提供可能になるような取り組みを推し進めていく。

##### 4. 国際化に向けての活動

日本ロボット学会の国際化に向け、欧文誌の価値を高め、それを活用していく。具体的には、アジアロボット学会連合 (ARSU: Asian Robotics Society Union) の参加学会との協力体制を整備し、これにより東アジア地域における認知度をより一層高めるための方策の検討と努力を行う。また、主要な国際会議 (ICRA2009, IROS2009) にあわせて国際編集委員会を開催し、海外委員による特集号企画などを通して、国際的認知度を高める努力を行っていく。さらに、国際貢献のために、ロボット学会の外国人会員の増加、日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。その中の一例として、ロボット学会に入会する事で、欧文誌のみ購読する場合には追加料金無しで購読できるようになるメリットを周知するパンフレットを国際会議場などで配布する等の対策を検討している。

日本ロボット学会 Vol. 26, No. 7 の特集で掲載されたアカデミック

ロードマップの取り組みが海外から注目されている状況を踏まえ、この特集号の英訳バージョンを Advanced Robotics の別冊特集号として発行する計画を進めている。発行時期として2009年9月を目標としており、IROS2009の会場にてこの別冊を無料で配布し、更に世界的な視点からの Advanced Robotics の知名度を向上させ、また評価を高めていく事を計画している。

##### 5. Brill社との契約等

Advanced Robotics をロボット学会の会員が全員購読をした場合の購読料金のディスカウントについて継続的に議論・交渉を進めており、年会費の増額をせず、また、現在追加購読料金として徴収させて頂いている2,900円の料金も廃止して全員購読化が可能になるための取支のプランを検討している。最短で2010年度からの全員購読化に向けて、引き続き検討を行い、会員サービス向上の実現を目指す。

#### V 企 画

##### 1. 調査・研究専門委員会活動 (定款第5条3号)

以下の研究専門委員会による委員会調査活動を行う。

- ・ロボティクス空間知能化研究専門委員会 (委員長: 橋本秀紀, 2009.1 継続)
  - ・手の巧みさ研究専門委員会 (委員長: 横小路泰義, 2009.1 継続)
  - ・ロボティクス・サイエンス研究専門委員会 (委員長: 國吉康夫, 2008.4 発足)
  - ・カー・ロボティクス研究専門委員会 (委員長: 永井正夫, 2008.4 発足)
  - ・北海道ロボット技術研究専門委員会 (委員長: 小林幸徳, 2008.4 発足)
  - ・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会 (委員長: 長谷川勉, 2008.4 発足)
  - ・ロボット教育研究専門委員会 (委員長: 佐藤知正, 2008.8 発足)
- また、「学生やポスドク研究者による自発的な研究コミュニティ形成活動」の積極的支援を行うことを目指した新たな研究専門委員会(3件)、および安全に関する研究専門委員会の設置を計画しており、2009年4月の活動開始を目指す。

##### 2. 規約等の制定・整備

学会運営の効率化・適正化、学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく。

##### 3. 表彰 (定款第5条4号)

第27回学術講演会において論文賞、実用化技術賞、研究奨励賞、功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う。また、本年度以降も財団法人ファナック FA ロボット財団の論文賞への候補論文の推薦、財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う。

##### 4. その他

本学会の将来展開に向けた方針と制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

#### VI 国 際

平成21年度は、平成19年度より始まった活動を着実に継続するという方針である。

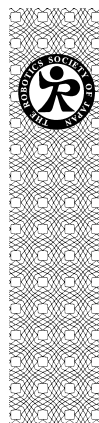
##### 1. 国際委員会による国際交流活動の本格化 (定款第5条5号, 6号)

国際委員会が中心となって国際交流活動の実務を行う体制を本格的に活発化させる。

##### 2. 国際交流活動 (定款第5条5号, 6号)

- (1) 第4回アジアロボットサミット (4th Asian Robotics Society Summit Meeting (ARSSM)) の開催  
期 日: 2009年10月13日前後、会場: 米 St. Louis の IROS 2009 会場近辺  
参 加 国: 第4回アジアロボットサミットは、第3回からさらに参加国の拡大を図る。
- (2) アジアロボット学会連合 (ARSU: Asian Robotics Society Union) の活動
  - 1) ARSU のウェブサイトを中心に以下のような活動を行う。
    - ・ARSU のウェブサイト <http://www.asian-robotics.org/> の拡充を行う。

- ・定款・規約を起案し、承認後掲載する。
  - ・解説記事や各国の代表的な研究成果を掲載するページを設けて、研究成果の共有を図る。ウェブ上で十分な実績を積んだ後、解説記事や研究紹介を中心とした国際雑誌を創刊することを目指している。
  - ・Young Researchers Network 設立の準備として、ARSU のウェブサイト、若手研究者の情報交換のためのページを設ける。
- 2) 次のようなアジアロボットサミットの合意事項を推進する。
- ・ARSU に属するロボット学会会員は、会員価格での相互の国際ジャーナル (Advanced Robotics, Journal of Intelligent Service Robotics (韓国) 等) を購読できること。(韓国ロボット学会以外にも拡大。)
  - ・ARSU のワークショップ、国際会議の開催、或いは、既存国際会議 (韓国 Robot Week 2009, 学術講演会国際セッション等) の ARSU としての開催/共催/協賛の検討。
  - ・教科書等の翻訳を含む教育の推進協力。
    - ・オーム社のロボット工学ハンドブック中国語版の普及活動
    - ・ロボット工学ハンドブックの英語版の検討 (30 周年記念事業としての検討)
  - ・Young Researchers Network/Network of Excellent Young Researchers 設立に向けて、IROS, ICRA 等の国際会議で、若手研究者のための懇親会等の活動の補助の検討。
- (3) 韓国ロボット学会 (KROS) との MOU 締結のフォロー
- 以下のような合意事項推進のための準備を行う。ARSU としての開催も検討。
- ・定期的共催会議の開催。
  - ・セミナー・ワークショップ等の共同企画。
- (4) IROS における Best Paper Award, Fumio Harashima Award のフォロー。
- (5) 第 27 回学術講演会における国際セッション
- 国際担当理事 1 名が、第 27 回学術講演会実行委員会に参加し、実行委員会を中心に、国際セッションの企画、実行を行う。第 26 回講演会における国際セッションの反省点を改善する。
3. 情報発信, その他 (定款第 5 条 5 号, 6 号)
- (1) 英文ホームページの更新, 改善
- 電子化委員会と協力して、ホームページの改善に取り組む。
- (2) 国際功労賞の検討
- 企画担当理事と共に、日本ロボット学会の表彰制度全体から再検討し、日本ロボット学会の国際的な発展に特に貢献のあった方の顕彰を検討する。
4. 国際会議共催/協賛 (定款第 5 条 1 号, 5 号)
- 本学会の共催/協賛国際会議の予定。
- (1) 14th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 14th '09) (協賛)
- 期日: 2009 年 2 月 5 日~2 月 7 日, 会場: 大分, 日本
- (2) 2008 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (IEEE ROBIO 2008) (協賛)
- 期日: 2009 年 2 月 21 日~2 月 26 日, 会場: Bangkok, タイ
- (3) 2009 Robotics: Science and Systems Conference (RSS 2009) (協賛)
- 期日: 2009 年 6 月 28 日~7 月 1 日,  
会場: Seattle, Washington, USA
- (4) 2009 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation (IEEE ICMA 2009) (協賛)
- 期日: 2009 年 8 月 9 日~8 月 12 日,  
会場: Changchun (長春), Jilin (吉林省), 中国
- (5) 18th IEEE Int'l Workshop on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2009) (共催)
- 期日: 2009 年 9 月 27 日~10 月 2 日, 会場: 富山, 日本
- (6) 2009 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2009) (共催)
- 期日: 2009 年 10 月 11 日~10 月 15 日,  
会場: St. Louis, Missouri, USA
- (7) The 6th International Conference on Ubiquitous Robots and Ambient Intelligence (URAI 2009) (協賛)
- 期日: 2009 年 10 月 29 日~10 月 31 日,  
会場: Gwangju (光州), 韓国
- (8) 2009 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS 2009) (協賛)
- 期日: 2009 年 11 月 8 日~11 月 11 日, 会場: 名古屋, 日本



## 【第4号議案】

## 平成21年度収支予算案

## I 一般会計

## 平成21年度収支予算書

平成21年1月1日から平成21年12月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
(1) 基本財産運用収入	85,000
基本財産受取利息収入	85,000
(2) 入会金収入	550,000
正会員入会金収入	150,000
学生会員入会金収入	400,000
(3) 会費収入	43,320,000
正会員会費収入	30,000,000
学生会員会費収入	5,000,000
賛助会員会費収入	8,320,000
(4) 事業収入	40,700,000
会誌掲載料収入	19,000,000
欧文誌事業収入	1,600,000
学術講演会収入	17,800,000
講習会収入	2,300,000
公開シンポジウム	0
(5) 雑収入	10,490,000
受取利息収入	90,000
広告料収入	7,000,000
資料頒布収入	2,400,000
雑収入	1,000,000
事業活動収入計	95,145,000
2. 事業活動支出	
(1) 事業費支出	55,840,000
① 会誌事業費支出	27,800,000
出版費支出	20,000,000
郵送費支出	6,200,000
編集費支出	1,600,000
② 欧文誌事業費支出	4,100,000
編集費支出	500,000
業務委託費支出	3,000,000
出版費支出	600,000
③ 学術講演会開催費支出	13,400,000
④ 講習会開催費支出	1,340,000
⑤ 公開シンポジウム開催費	0
⑥ 電子化運営委員会費支出	5,600,000
⑦ 専門委員会費支出	2,200,000
研究専門委員会費支出	2,000,000
調査専門委員会費支出	200,000
⑧ 広告制作費支出	600,000
⑨ 表彰費支出	800,000
(2) 管理費支出	36,130,000
総会費支出	800,000
給料手当支出	16,000,000
臨時雇賃金支出	3,500,000
福利厚生費支出	1,400,000
旅費交通費支出	100,000
通信運搬費支出	800,000
備品消耗品費支出	500,000
会議費支出	800,000
印刷製本費支出	1,000,000
光熱水料費支出	330,000
賃借料支出	7,000,000
諸謝金支出	1,300,000
租税公課支出	1,000,000
会費収納費支出	700,000
雑費支出	900,000
(3) 雑損失支出	1,300,000
事業活動支出計	93,270,000
事業活動収支差額	1,875,000

II 投資活動収入の部	
1. 投資活動収入	0
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
(1) 特定資産取得支出	800,000
退職給付引当資産取得支出	800,000
投資活動支出計	800,000
投資活動収支差額	△ 800,000
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	0
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
(1) 他会計への繰入金支出	0
学術集会開催基金繰入金支出	0
刊行物発行基金繰入金支出	0
国際会議等開催基金繰入金支出	0
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0
IV 予備費支出	1,000,000
当期収支差額	75,000
前期繰越収支差額	31,364,088
次期繰越収支差額	31,439,088

(注) 1. 借入金限度額 0円  
2. 債務負担金 0円



## II 刊行物発行基金

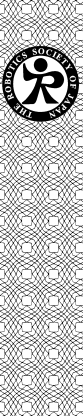
平成 21 年度収支予算書  
平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日まで  
(単位：円)

科 目	金 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
(1) 事業収入	0
(2) 雑収入	150,000
受取利息収入	150,000
雑収入	0
事業活動収入計	150,000
2. 事業活動支出	
(1) 事業費支出	0
(2) 雑損失支出	0
事業活動支出計	0
事業活動収支差額	150,000
II 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	
(1) 他会計からの繰入金収入	0
一般会計からの繰入金収入	0
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
刊行物発行基金繰入金支出	150,000
財務活動支出計	150,000
財務活動収支差額	△ 150,000
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0

## III 学術集会開催基金

平成 21 年度収支予算書  
平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日まで  
(単位：円)

科 目	金 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
(1) 事業収入	0
(2) 雑収入	150,000
受取利息収入	150,000
雑収入	0
事業活動収入計	150,000
2. 事業活動支出	
(1) 事業費支出	0
(2) 雑損失支出	0
事業活動支出計	0
事業活動収支差額	150,000
II 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	
(1) 他会計からの繰入金収入	0
一般会計からの繰入金収入	0
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
学術集会開催基金繰入金支出	150,000
財務活動支出計	150,000
財務活動収支差額	△ 150,000
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0



## IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 21 年度収支予算書

平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
(1) 事業収入	0
(2) 雑収入	50,000
受取利息収入	50,000
雑収入	0
事業活動収入計	50,000
2. 事業活動支出	
(1) 事業費支出	1,670,000
表彰費支出	500,000
国際会議派遣費支出	900,000
雑費支出	270,000
(2) 雑損失支出	0
事業活動支出計	1,670,000
事業活動収支差額	△ 1,620,000
II 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	
(1) 他会計からの繰入金収入	0
一般会計からの繰入金収入	0
(2) 国際会議等開催基金取崩収入	1,620,000
財務活動収入計	1,620,000
財務活動収支差額	1,620,000
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0

## 【第 5 号議案】

個人会員除名処分の件

日本ロボット学会定款の第 11 条 (2) に基づき除名処分を行う。  
除名対象者数を以下に示す。

正会員	49 名
学生会員	86 名
合 計	135 名

【第 6 号議案】(お知らせ 24 参照)

【第 7 号議案】(お知らせ 24 参照)